

ぜんたい

令和7年 7月
第77号



昭和 30 年代 千葉県江戸川；アジ網による海産稚鮎採捕(上) 琵琶湖；エリ漁による稚鮎採捕(下)

CONTENTS

巻頭言	2	我が漁協(高知県 物部川漁協)	16
令和7年度通常総会	4	みんなでやるぞ！内水面(内水面漁協は「人づくり」に頑張してほしい)	18
第13回全国内水面漁業振興功績者表彰	4	みんなでやるぞ！内水面(令和6年度実施団体報告)	20
新役員紹介	5	内水面漁協(第47回)	24
全内漁連開催の各会議について		愛しきアユ(第50回)	25
監事会、総務委員会、推薦会議、理事会を開催	6	漁場生産力・水産多面的機能強化対策支援委託事業	26
推薦委員選出協議会を開催	7	カワウの全国一斉対策の取り組みについて(第12回)	27
ブロック会議を開催	7	日光支所から	28
外来魚事業の第1回検討委員会を開催	8	春の叙勲	29
カワウ事業の第1回検討委員会を開催	9	全内の会員組織変更について	29
資源回復のための種苗育成・放流手法検討事業(アユ)第1回検討委員会を開催	10	業務日誌	30
みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業の総合評価検討委員会等を開催	11	職員のつばやき	31
令和7年度第1回全国事務担当者研修会	12	新聞記事から	31
漁業経済学会第72回大会ミニシンポジウムが開催されました	14	編集後記	31
内水面にまつわる思い	15		

全国内水面漁業協同組合連合会

漁業者(会員・漁連)の傘下漁協組合員
漁業者以外の購読者

年間契約「四回発行」定価三、〇〇円(本体二、七八円)送料サービス
年間契約「一回発行」定価三、〇〇円(本体二、九〇円)送料サービス

単品 定価七五〇円(本体六八二円)送料別
単品 定価八〇〇円(本体七二八円)送料別

information

全内で釣り人向けの普及啓発用 パンフレットを作成しています

申込は、各県漁連でのとりまとめをおねがいしています。
その都度で申込が可能で、100 枚からご希望のクレジット
で作成できます。
詳しくはお問い合わせください。



パンフレットA4両面

令和7年度 第66回

全国内水面漁業振興大会

日 時：令和7年10月7日(火)
場 所(大会)：石川県立音楽堂 邦楽ホール(石川県：金沢市)

機関誌 ぜんたい 第77号

全国内水面漁業協同組合連合会機関誌

令和7年7月発行

発行人：全国内水面漁業協同組合連合会
代表理事会長 谷 公一

編 集：本所 機関誌編集委員会

発行所：全国内水面漁業協同組合連合会
〒101-0044

東京都千代田区鍛冶町1丁目10番4号 丸石ビル4階
TEL：03-6260-9595 FAX：03-5296-2030
ホームページ：https://www.naisuimen.or.jp

印 刷：鵜川印刷株式会社
〒923-0053 石川県小松市河田町丁33番地

令和7年度通常総会

令和6年度の事業終了に伴い、令和7年6月25日午後1時半、東京都千代田区永田町の全国町村会館ホールにおいて7年度の通常総会を開催しました。

滑川幸男副会長理事（千葉県内漁連会長）が開会を宣言し、全内から谷公一代表理事会長があいさつ、水産庁の高橋広道増殖推進部長より来賓のあいさつを頂きました。関係団体からは（二社）大日本水産会の長岡英典常務理事、（二社）全国さけ・ます増殖振興会の内海邦夫専務理事、（公社）日本水産資源保護協会の瀧田雅樹事業部長、（二社）全日本釣り団体協議会の鈴木伸一専務理事、水産庁からは、生駒潔内水面漁業振興室長、丸茂亮太課長補佐にご臨席頂きました。

安永勝昭氏（東京都内漁連会長）を議長に選出して議案審議に入り、第1号議案から第9号議案が原案どおり可決承認されました。

第9号の任期満了に伴う役員改選については、全国6地区から推薦された理事・監事候補者17名と、員外から迎える2名の理事についての信任投票を行い、高杉則行氏（茨城県内漁連会長）、松本泉氏（埼玉県漁連会長）、川口恭弘氏（和歌山県内漁連会長）、山田満氏（鹿児島県内漁連会長）4名立ち会いのものと開票作業が行われ、候補者全員が承認されました。

総会は、渡部完副会長理事（兵庫県内漁連会長）の閉会の辞により終了しました。

なお、総会終了後に開催した理事会において、総会で承認された役員の中から代表理事会長として谷公一氏を選出、併せて副会長理事6名と専務理事として中奥

龍也氏を選出、副会長理事6名の職務代理の順位を定款第二十八条に基づき決定しました。同じく総会終了後に開催した監事会において代表監事を選出しました（7頁参照）。

通常総会議案

第1号議案

令和6年度事業報告並びに収支決算承認の件
第2号議案

令和6年度損失金処理案承認の件

第3号議案

令和7年度事業計画並びに収支予算案決定の件

第4号議案

令和7年度経費の賦課及び徴収方法決定の件

第5号議案

令和7年度における役員の報酬額決定の件

第6号議案

令和7年度余裕金預入先決定の件

第7号議案

令和7年度借入金限度額決定の件

第8号議案

全国内水面漁業協同組合連合会に係る役員選任規約の一部改正の件

第9号議案

役員改選の件（理事16名、監事3名）

総会終了後、第13回全国内水面漁業振興功績者表彰を執り行いました。受賞者の功績等報告を行い、該当県の出席者が代理で賞状を授与しました。
また、本総会をもって役員を退任された、宮田幸一氏、江藤俊男氏に谷会長から花束が贈呈されました。

第13回全国内水面漁業振興功績者表彰 受賞者

●両毛漁業協同組合（群馬県）

【功績概要】

地域住民や子どもたちを対象に数々の環境学習を継続的に実施しており、水産多面的機能発揮対策事業においては模範漁協として事例集に掲載されるなど、持続可能な内水面生態系の維持・保全・改善を目指すための多面的な役割と機能を果たしており、地域社会への貢献だけでなく地域の活性化、組合の活性化にも寄与している。

カワウ対策においても、被害防止対策技術開発事業に継続して参画し、実証試験漁協として貢献している。



来賓あいさつをする水産庁の高橋増殖推進部長



議長の安永氏



あいさつをする谷会長



4名の立ち会いのもと開票作業（山田氏、高杉氏、川口氏、松本氏）

新役員紹介

令和7年6月25日の通常総会において役員改選を行い、新役員が選出されました（任期は、3年後の総会終了まで理事定数16名、監事定数3名）。

代表理事会長

谷 公一

（員外）



- ・衆議院議員（兵庫5区・8期）
- ・第2次岸田改造内閣・国家公安委員会委員長・内閣府防災担当大臣（国土強靱化・海洋政策・領土問題等担当大臣）（2022年8月10日発足）
- ・内水面漁業振興議員連盟 副会長

副会長理事（6名）



滑川 幸男

（千葉県内水面漁連会長）



渡部 完

（兵庫県内水面漁連会長）



佐藤 仁一

（宮城県内水面漁連会長）



中島 謙二

（島根県内水面漁連会長）



渡邊 典浩

（三重県内水面漁連会長）



宮名利 光廣

（おおいた河川漁連会長）

専務理事



中奥 龍也

（員外）

理事（8名）



齋川 隆夫

（青森県内水面漁連会長）



湊屋 啓二

（秋田県内水面漁連会長）



松元 平吉

（群馬県漁連会長）



萩原 剛

（山梨県漁連会長）



尾藤 義昭

（岐阜県漁連会長）



八田 伸一

（石川県内水面漁連会長）



米村 義信

（山口県内水面漁連会長）



江上 敬司郎

（宮崎県内水面漁連会長）



佐野 昇

（滋賀県河川漁連会長）



村山 賢二

（新潟県内水面漁連会長）



橋本 義美

（徳島県内水面漁連会長）

監事（3名）

代表監事

佐野 昇

（滋賀県河川漁連会長）

内水面漁協

第四十七回

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所
環境・応用部門 沿岸生態システム部 内水面グループ 研究員
東京海洋大学 非常勤講師

中村 智幸



全国の内水面漁協の組合員数の最新データと今後の予測

海面（沿海）の漁協の組合員数は、毎年、農林水産省によって調査され、公表されていますが、内水面の漁協の組合員数は農林水産省が5年おきに実施する「漁業センサス」という調査でわかります。その調査が2023年（令和5年）に実施され、結果が今年の3月末に公表されました。

2023年の全国の内水面漁協の正組合員数は213,182名です。内水面漁協の組合員には法人もなれますが、この「正組合員数」は組合員の大多数を占める一般的な個人の正組合員です（個人の組合員には准組合員もありますが、今回のお話は組合員の大多数を占める正組合員についてです）。

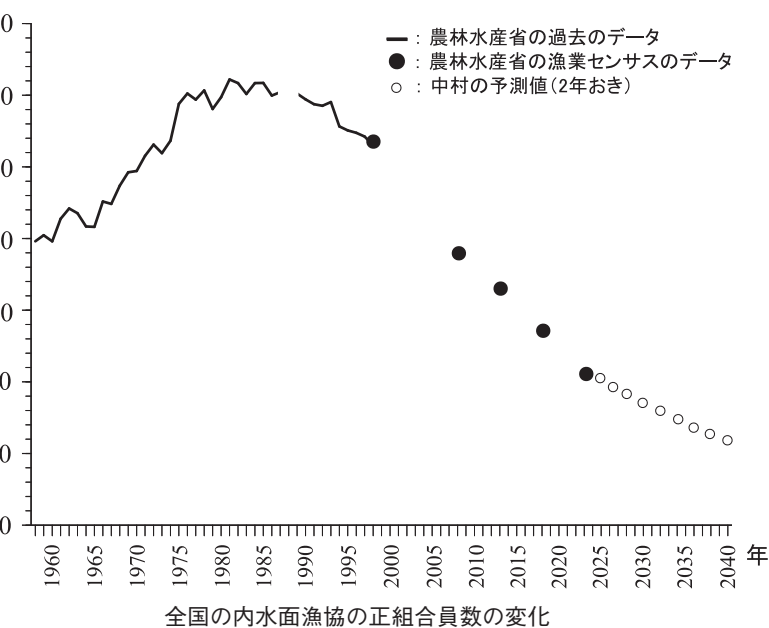
2023年の5年前の2018年の正組合員数は271,167名だったので、5年間で57,985名減りました。減少率は21・4%です。

その5年前の2013年から2018年にかけての正組合員数の減少率は17・6%なので、減少のスピードが早まっています。

ちなみに、日本の人口を調べたところ、2018年から2023年の人口の減少率は1・7%（1億2,644・3千人→1億2,435・2千人）なので、同じ期間の組合員の減少率（21・4%）は異常に高いです。組合員の減少率は人口の減少率の12・6倍です。

組合員が減ると、増殖活動や漁場監視の成り手（なりて）が減ります。組合長や理事などの役員の成り手も減ります。組合員が漁協に納付する賦課金の収入も減ります。ひいては漁協の活動の活性が低下します。

この機会に、ご自身の漁協の正組合員数がどのくらい減っているのか調べてみてはいかがでしょうか。めやすは2018年から2023年にかけての減少率です。その期間の減少率が21・4%より小さければ減少の程度は全国的な状況にくらべてひどくなく、大きければ全国的な状況にくらべてひどいということになります。



全国の内水面漁協の正組合員数の変化

ただし、減少率が全国的な状況よりひどくなくてもひどくても、組合員が減少している場合は減少に歯止めをかける方法を考えて実行する必要があります。

全国の内水面漁協の正組合員数の予測値

	人数
2025 年	20 万 5,782 人
2026 年	19 万 8,449 人
2027 年	19 万 1,377 人
2028 年	18 万 4,557 人
2029 年	17 万 7,980 人
2030 年	17 万 1,637 人
2031 年	16 万 5,520 人
2032 年	15 万 9,622 人
2033 年	15 万 3,933 人
2034 年	14 万 8,447 人
2035 年	14 万 3,157 人
2036 年	13 万 8,055 人
2037 年	13 万 3,136 人
2038 年	12 万 8,391 人
2039 年	12 万 3,815 人
2040 年	11 万 9,403 人
2041 年	11 万 5,148 人
2042 年	11 万 1,044 人
2043 年	10 万 7,087 人
2044 年	10 万 3,271 人
2045 年	9 万 9,590 人
(2050 年)	8 万 3,065 人
(2055 年)	6 万 9,282 人
(2060 年)	5 万 7,786 人

その1998年以降の漁業センサスのデータ（図の中の黒丸）をみると、正組合員数は直線に近い緩やかな曲線を描きながら減少しています（統計学的に有意な指数関数的に減少）。この減少傾向に基づいて予測すると、表のように正組合員数は今年（2025年）は約20万6千人、その5年後の2030年は約17万2千人で、2034年に15万人を下回り、2045年に10万人を下回ります。ものすごい勢いで減ると考えられます。

愛しきアユ

第五十回

庄川沿岸漁業協同組合連合会
富山県内水面漁業協同組合連合会
富山県内水面漁場管理委員会

代表理事会長（常勤）
副会長
委員

田子 泰彦



「アユの「跳ね千匹」は本当なのか？」

はるかなる昔、昭和50年代の終わり頃、庄川の中流域で、毛鉤釣りで1匹のアユを釣ったために、その釣れたアユの美しさとアユ釣りの面白さに感動して、アユの毛鉤釣りに夢中になりました。そして、誰もが、そうするうちに、本屋でアユの毛鉤釣りの本を探して買って、食べるように読んだものです。そこには、仕掛け等の仕組みはもちろんのこと、竿の微妙な動かし方、毛鉤の選択などの他に、アユのいる場所や時間を選んで釣るようにとありました。そして、「アユが1匹川面を跳びはねれば、その下には（水中には）千匹のアユがいる。」という「格言」がある、とあったのです。だから、飛び跳ねているアユの数を目安にして場所を選んで釣るようになってきました。

（へー、そんなものか）と思いました。が、当時の庄川にはアユが無数と言えるところが多かったです。また、大きな淵も多くあったので、夕方になると至る所で飛び跳ねていたのです。その格言も全く無用でした。ところが、年月を重ねるうちに、アユは少なくなるし、大きな淵もほとんどなくなってきた。 「格言」を

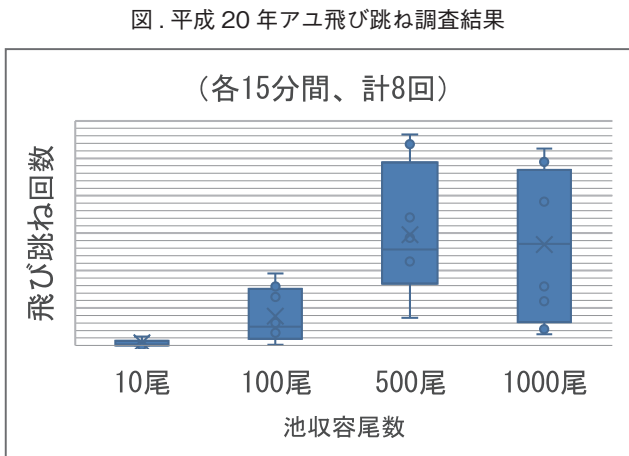
基に川面でアユが飛び跳ねている場所を探して、竿を入れなければ釣れなくなりました。

神通川や庄川において、大きな淵で毛鉤釣りをしている際に、なかなか釣れない時間帯があるのですが、そんな時にアユが数匹、川面を飛び跳ねて近づいてくると、そこにいた釣り人は、「アユが回ってきたぞ」と言って、構えるのですが、案の定、皆にアユがバタバタと釣れることが良くあります。別に、その跳びはねたアユが毛鉤に掛かる訳ではないようなので、飛び跳ねていたアユの下の中には多くのアユが一緒に来ていたと考えたくなります。

友釣りでは、アユがいるかどうかを川の岸際の石垢（藍藻）の食み具合で見ると言われますが、瀬では確かにそれは有力な指標ですが、水深のある淵では必ずしもそうではありません。また、食み跡にはタイムラグがあり、数時間前とかにアユがいたという証にはなりませんが、今、いるかとなると、確証は持てません。でも、アユの飛び跳ねは、今、目の前での出来事です。だから、ここにアユがいると自信を持って言うことが

できます。

それで、「一跳ね千匹」がどこまで正しいのかを、県の水産研究所時代に調べたことがあります。方法は単純で、小さな飼育池（長さ2・96m、幅1・45m、水深0・52m、2・2㎡。写真）に、体重10〜20gのアユを、10尾（2・2㎡、以下同じ）、100尾、500尾、1000尾に分けて飼育しました。夏の夕方に、この池の蓋を一斉に取り外して、それぞれの池で15分間に飛び跳ねたアユの回数を、私他3人の同僚の協力を得て、それぞれの池で、カウンターで計数しました。結果は図の通りです。



図．平成20年アユ飛び跳ね調査結果

川の淵では、「一跳ね千匹」もあり得ると思ひ、あながちオーバーな表現でもないように思いました。いずれにしても、飛び跳ねるアユの数を見て釣り場を選ぶのは、アユ釣り（毛鉤釣り）の定石と言えるでしょう。



アユの飛び跳ね試験を行った飼育池